

6. 今、30年間の歩みの中で少し気づくこと（自分を見つめる時間の大切さ）
- ・人との出会いが、心の糧となり、大切な命の時間である事に気づく。
 - ・介護職としての専門職の素晴らしさ、学びの重要性を知る。
 - ・笑顔・ほほえみは心のビタミン剤のように、笑顔は無言のコミュニケーション。
時には孤独も神様からの恵み、神とのよき交わりの時である
 - ・その人を100%理解する事は出来ない。20%はその人を許す勇気があれば・・・
 - ・「置かれた場所で咲きなさい。それは諦めることでなくて、笑顔で神様が私を置いてくださったということは、間違いでないということを示すことなのです。（渡辺和子愛を込めて祈るより）

7. 共に歩む福祉村を夢見て

- ・地域に支えられ、地域に信頼されて、地域と共に歩む福祉村
- ・「主よ、変えられないものを受け入れる心の静けさと、変えられるものを変える勇気と、その両方を見分ける英知を与えてください」
- ・介護は手と心「主よ、どうぞご利用者を支える、多くの手と心を与えてください」

「与えられた場所で輝く」

あの時、あの人との出会いがなかったら
あの時、あの苦しみ、悲しみがなかったら
今の私はない。
苦しみ、悲しみに溢れ身動きできないとき、
私は教会の片隅でうずくまっていた。



一人でもがいていた私
暗い教会の中でのいつの間にか眠っていた
気づけば涙と共に心も軽くなっている
私の涙と悲しみ、苦しみをあなたが共に背負ってくれました。

あの時から私は一人ではない
あなたは色々な人々を通して私を支えてくれている。
あなたから与えられたこの場所、この場所で静かに輝いていた。
(心の詩集より)



第1分科会・・・ 気がつけば元気 ～アクティビティと社会参加～

(常総ふれあいの杜応接室)

- ・KG宮城 千葉亜紀 「共生型福祉施設から多世代交流・多機能型福祉拠点へ」
- ・常総ふれあいの杜 西川千枝美 「生きる、活きる、社会参加を目指して」
- ・ホサナショップ 小島 敏 「ホサナショップにおける利用者支援」

書記：松田 美幸（常総ふれあいの杜）

発表者：大音 優一朗（草加キングスガーデン）

事例発表	<ol style="list-style-type: none"> 1. アクティビティと社会参加 2. 生きる、活きる、社会参加をめざして 3. ホサナショップにおける利用者支援
検討課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 震災後の復興となる施設事業の開始、町づくりと社会参加 切れ目のない支援システムの構築をめざして 2. アクティビティを通して地域への啓蒙と社会参加 3. 自己決定と社会参加
課題に対する主な意見	<p>1.ピンチをチャンスに変え、地域の光、励みとなって高齢者・障害者・地域の方や小児も含めた社会交流に今後の可能性を感じた。結果オーライで逆境に立ち向かっていく姿勢が大切で、支援はそれぞれ別に行っているが、交流の中でお互いが助け合いながら楽しい時間を過ごされていることに魅力を感じた。</p> <p>2.施設入所と聞くと閉鎖的なイメージがあったが、いろいろな活動や社会参加をすることで社会に対してオープンになり、様々な良い方向へ向かっていると感じた。ご利用者にとって、やれること、やりたいことがあるということはとても大切でアクティビティが充実することで楽しみを増やすことができ、笑顔につながっていると思う</p> <p>3.ご利用者それぞれのニーズに合わせた対応は難しいが、自己決定していただくことが重要で、ご利用者のペースに合わせて考え決定していくことに繋がっている。障害者のストレンスを活かし自主性を出すことが大切だと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全確保が第一ではあるが、小さなことは仕方ないと考え、深刻なことの見極めが大切と考えているとのこと。精神障害の方は波があるが、同じ作業や仕事ができるご利用者同士でカバーし合っていて、そのやりくりも将来的にはご利用者同士で出来るといいなと目標にしている。 ・成功体験ばかり追ってしまうが、失敗することもご利用者の成長に繋がっている。少しずつご利用者と共に考えていくことが大切。
発表者の感想	<ol style="list-style-type: none"> 1.震災前に法人で計画していた事業を再開し、町づくりに参加している。キングスタウンには地域の方が集まり、食糧不足の問題もあったが、付き合いのあった業者の協力がありやりくり出来た。 2.施設開所から10年が経ち、ご利用者がアクティビティを行う中で積極性や自主性が生まれ、また新聞や広報誌への掲載によって一層それらが増し自信に繋がっている。 3.職員はソーシャルワークという位置付けで、メンバー(ご利用者)が失敗したりうまくいかないことも成長に繋がっていると考え、問題が起きた後の対応に重きを置いている。問題解決の主体はメンバーたちで自己決定・社会参加へ繋げていくことが課題であり、精神疾患のリハビリとしている。